

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070201142		
法人名	医療法人 正周会		
事業所名	グループホーム 玄海の森		
所在地	福岡県北九州市若松区大字有毛2933-6		
自己評価作成日	平成23年5月6日	ユニット名	東館

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年5月24日	評価結果確定日	平成23年6月27日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境、四季を感じられる中で、「自分らしくのんびりと、共に過ごす豊かな日々」を理念に掲げ、入居者・ご家族が安心し、穏やかに生活ができるよう支援しています

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの前には海、後方には森と、大自然に囲まれた場所でゆったりとした時間が流れている。ホームにはウッドデッキも設けられており、そこで日光浴をしながらお茶を飲んだり、バーベキューをしたりと、季節を肌で感じながら過ごすことが出来る環境が整えられている。また、ホーム内で過ごすだけではなく、地域のお祭りに参加したり、海岸掃除にも参加したりと、積極的に地域との交流も深めている。利用者の日々の状態やホームでの様子について、毎月手紙を書いて家族に送付している。1枚1枚、丁寧な文字で手書きされており、その手紙からも職員の利用者に対する温かい思いを感じることが出来た。

## . サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、誰でもめにする事が出来るよう玄関脇に掲示し、常に意識して支援に繋がっている。また、各職員が理念を念頭に入れ、入居者第一で考え、支援するよう努めている	ホーム開設時に、開設メンバーにて作成したものである。職員の入職時に説明を行っており、理念を通して自分らしく・その人らしくという部分を忘れないように日々支援を行っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は祇園祭りに参加、近隣散歩時に顔を合わせた際には挨拶を行ない、気軽に話しができる関係を築いている。また、近隣施設との繋がりを持ち、行事参加など積極的な活動を行なっている	併設のデイサービスやケアハウスとの交流は基より、地域のボランティアの受け入れ等も積極的に行っている。また、地域の行事(夏祭り等)への参加も積極的に行っており、地域との交流を深めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、認知症についての議題など取り組み、理解を深めていただき、また、質問等には情報提供を行なっている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議で報告を行い、意見や疑問は議事録に明記し、さまざまな立場の方の知識、情報を活用し、サービス向上のため、職員で検討を行い周知に努めている	概ね2ヶ月に1回開催しており、地域住民や地域包括支援センターの職員、入居者、その家族等が参加している。主にホーム内でのサービスに対する取り組みや行事についての報告を行う場となっている。	デイサービスのスペースを利用して会議を開催しており、今後はホーム内の見学も予定している。自治会長や民生委員等の方々にも運営推進会議へ参加してもらうことで、地域との関係性が更に深まるよう、継続した取り組みに期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	課題・問題などが生じた際には、連絡をとり指導・助言をお願いするなど、協力を得ている	区内のグループホームと市職員、地域包括支援センター職員が集まって、ネットワーク研修会を発足したところである。今後、地域の人たちに向けて勉強会等を行ったり、情報交換を行っていく予定である。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部・内部研修を実施し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。身体拘束に関するマニュアルあり、見直し行なっている	外部研修に参加しており、その内容を全職員に伝達研修している。徘徊等があっても、安易に鍵をかけてしまわず、対応を工夫しながら拘束がないケアの実践に努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部・内部研修を実施。日々の業務の中で、職員同士随時確認している。また、ミーティングなどで、指導・話し合いを行なっている		

福岡県 グループホーム 玄海の森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修での報告・研修資料の回覧、パンフレットなどで情報を共有している。また、入居者・家族にすぐに、ご案内・説明ができるよう、資料・パンフレットを揃えている	年2回程、市が主催する研修に参加しており、制度についての理解を深めている。パンフレットも常備しており、質問等があればすぐに対応することが出来る。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時(解除時)には十分な時間を頂き、重要事項や契約に関する事項を一つひとつ文言を口頭説明行なっている。不安・疑問点については、その都度説明を行い、理解・納得を頂いている		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	匿名で意見ができるよう玄関ホールに意見箱を設置。気軽に声をかけて頂けるよう馴染みの関係作りに取り組み、会話の中より意見を伺う。面会時には、御意見・苦情などないかお尋ねしている	家族が面会に来られた際には声かけを行い、意見の吸い上げを図っている。また、直接言いにくいことも勘案して、玄関先に意見箱も設置している。	
	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを行い、情報交換・意見・提案などないか話し合う機会を設け、全職員で情報共有しサービスを行なっている。また、管理者は常時、職員の意見聞き、職務に反映させている	月1回のミーティング時を始め、日々の業務の中で、職員からの意見や提案を聞くように努めている。実際に出た意見や提案については、出来る限り業務に反映するようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得のための休暇や、改善が図れる場合は、出来る限り対応し、働きがい、向上心がもてる職場環境・条件作りに努めている		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては、性別・年齢・不問としている。職員個人の能力を活かす事ができるよう、月替わりの担当者を決め、行事の企画・内容案を出してもらったり、資格取得・研修などについても、職員の希望、能力向上のため参加を促している	母体法人にて募集を行い、グループホーム勤務希望があれば、管理者が面接を行っている。性別や年齢、資格等については特に制限しておらず、きちんと挨拶が出来る人、高齢者が好きな人、認知症に対する理解がある人を採用するようにしている。職員の休みの希望についても、なるべく希望に沿って休みが取れるようにシフトを組むようにしている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部・内部研修行い、マニュアルに関してはいつでも閲覧可能。定期的に見直し行なっている	年1回程度、市が開催している研修に参加しており、ホーム内での伝達研修も行っている。地域に対する啓発活動についても検討しているところである。	

福岡県 グループホーム 玄海の森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務年数や経験に考慮した、外部研修への参加。また、疑問・不安点などは、その都度対応し、助言・指導など行なえる環境を整えている		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	若松区地域密着型サービス事業者ネットワークに参加し今後も、定期的に活動を予定しており、課題の検討会・意見交換会など行なっている		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前・利用初期には、ゆっくり会話できる環境・時間を設け、言葉や表情から気持ちを汲み取り、希望、現在必要なことを引き出すことが出来るように努めている		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に傾聴の姿勢を心がけ、困っていること、不安、また、疑問など表出できるよう環境を整え、関係作りに努めている		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接によりご本人・ご家族が必要としている、また、必要であろうと考えられるサービスを状況・会話より、見極めサービスの紹介を行ったり、アドバイスを行なうよう心がけている		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者本意の生活を第一に考え、1対1での会話またコミュニケーションを行なうことにより、どのような暮らし、生活を望まれているか、また、共に生活することにより支えあいの関係作りに努めている		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報の共有化を心がけ、面接の際など、ご本人の心身状態や日頃の様子などについて話し合い、また、相談しやすい雰囲気作り、信頼関係を築いている		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前通っていた施設などを訪れたり、馴染みのある場所に外出するなど、馴染みの関係が途切れないよう努めている	併設のデイサービスやケアハウスで以前から顔見知りだった方が遊びに来たり、利用者が遊びに行ったりと、お互い行き来することが出来るよう支援している。また、家族の協力を得ながら、以前から通っていたダンス教室に継続して通っている方もおり、介護計画の中にも示しながら支援を行っている。	

福岡県 グループホーム 玄海の森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	レクリエーション・行事などに参加して頂き、 利用者同士が関わり合えるような環境作り、 またスタッフが橋渡し役となりコミュニケー ションが円滑に行なえるよう支援している		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、面会・訪問するなど、馴 染みの関係を継続できるようにしている。ま た、経過を把握し、いつでも相談ができる環 境を整えている		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	入居者と会話し、思いなどの希望・意向を把 握し、困難な場合は普段の言動・表情など から意向に沿えるように努めている	普段の会話の中から思いや意向を汲み取っ たり、それが困難な場合は家族にも協力を仰 いで、今までの生活歴等を聞きながら、どの ような思いがあるのかを探るようにしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	アセスメントツールとしてセンター方式を取り 入れている。ご家族より情報収集をお願い し、また、日常の会話より情報を得て、職員 が把握できるようにしている		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日常生活を一緒に営み、性格・能力など把 握に努め、記録・アセスメントツールに記載 し、客観的・総合的に現状を把握してる		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	ご本人・家族に意向・要望を尋ね、また、 ミーティングにて討議し、多数の意見を反映 させ、より良い介護経過ウの作成を行なっ ている	センター方式を利用して課題を見つけ出し、 職員の意見を始め、利用者本人や家族の意 向を聞きながら計画を作成している。ケア計 画がきちんと実施できたかどうか、実施記録 に毎日チェックをいれて、いつでも確認出来 るようにしている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	異変・身体状況・言動・精神状態などを記録 し、職員間で共有、また、日々の生活の中で 適宜、見直しを行なっている		

福岡県 グループホーム 玄海の森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスのほか、状態、状況により支援・サービス内容を柔軟に対応できるように心がけている		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア・中学生の実習の受け入れなど行い交流を図っている。また、新しい情報・資源を収集し把握、対応に努めている		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際にかかりつけ医を確認、希望・可能であれば引き続き、診察を受けられるよう支援。協力医療機関を希望される方は、送迎・付き添いサービスを行い、医師へ報告・相談がある際は、情報提供書をお持ちいただいたりと適切な支援をしている	入居時に利用者本人と家族の希望を聞いた上で、元々のかかりつけ医をそのまま受診するか、協力医を主治医に変更するかを決定するようにしている。協力医を受診する利用者については、職員が送迎・付き添いの支援を行っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ病院・関連施設の看護師とコミュニケーションは取れており、受診時・急変時に、気軽に相談・疑問など会話できる関係を築いている		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、ご本人・家族の同意を得て情報提供を行い、医療面以外では、変化の少ない生活を送って頂けるよう配慮する。また、面会に伺い、病状の経過など情報交換常に行なっている		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	可能な限りホームでの生活が継続できるように考えているが、現状では明確な基準、方針は定めていないが、容態悪化時の対応、受け入れ医療機関との連携は取れている	医療機関や母体法人としての連携も活かしながら、ホームとしての出来る限りの支援を行っていく事を、入居時に説明している。また、日常の中でさりげなく意向確認を行いながら、家族や医療関係者との方針の共有に努めている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故時のマニュアルあり(定期的に見直し)内部研修にて、心肺蘇生法の実践訓練など行っている		

福岡県 グループホーム 玄海の森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルあり(定期的に見直し)年2回、地域消防署・設備点検会社の協力を得て実地訓練を実施。緊急時は、関連施設の協力が得られる体制を整えている	年2回、消防の立会いのもと、避難訓練が実施されている。夜間を想定した訓練も行い、万が一に備えている。運営推進会議のメンバーとして消防団の方もおり、地域の協力体制も取りやすい環境である。緊急時対応や備蓄等、法人としての連携を活かした体制の整備にも努めている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に関する、内部・外部研修を行なっている。また、常に尊敬の心を持ち、言動に気をつけ、職員同士確認している	プライバシー保護に関する研修が、年1回、市主催で行われており、それに参加するようにしている。日常の業務の中でも、言葉づかい等について職員同士で注意しあったりするようにしており、日頃から利用者の尊厳を守るように心がけている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように、簡潔な説明、選択肢を簡単にするなど、利用者の気持ちに副えるよう働きかけている。また、意思疎通困難であれば表情より伺いする		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の、状態・状況などに応じ、個々の希望やペースを優先し、生活を送って頂けるよう支援している		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望時は、訪問美容を依頼しカット・パーマ・カラーを利用している。また、外出時、イベント時にはご希望があればお化粧を一緒にするなど、おしゃれを楽しんでいる		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時は各自、使い慣れた食器や好みの食器に盛るようにしている。また、個々のできる範囲でのお手伝いをお願いしている(野菜切り、盛り付け、下膳など)	利用者が出来る範囲で、野菜を切ってもらったり、盛り付けをしてもらったりする等、残存能力を活かす場面としている。食事作りの日も設けており、利用者が好きなもの、食べたいものを作っている。利用者から大変好評である。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に状態に合わせた量、また、同意を得ての食事形態にて提供している。摂取量・水分量を記録し日々の支援の目安としている		

福岡県 グループホーム 玄海の森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア、口腔内・義歯チェックを実施している。週1回、歯科往診にて、相談・予防をお願いしている		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎回、排尿チェック表記入を行い、一人ひとりのパターンを把握し、声かけ・介助行なうことにより、トイレでの排泄、出来る限り失禁の少ない生活を送っていただいている	排泄チェック表を用いて、それぞれのパターンを把握し、それに沿って声かけや誘導を行っている。オムツはずしにも積極的に取り組んでいる。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を利用し、ヘイ便パターンを把握。体操・歩行など運動を行なっていたり、また、適量の水分補給、植物繊維の多く含まれた食物を摂取していただくなど、なるべく便秘薬に頼らない対策を行なっている		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	設定時間は午後となっているが、状態・体調など考慮し、柔軟な対応を行なっている。また、希望者は同施設の大浴場を利用することもできる	毎日午後からお風呂を沸かしており、希望に合わせて入浴できるようになっている。併設のデイサービスに大浴場があり、希望があればそちらの浴室も利用することが出来る環境である。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、倦怠感や眠気を感じられる時は、状態把握し夜間睡眠の妨げにならない範囲で、臥床・安楽に過して頂いている。夜間睡眠は、なるべく睡眠導入剤に頼らず、日中の活動を促し、安眠できるよう支援している		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は介護記録とともにファイルし、すぐに確認できるよう管理している。効能・用量は常に確認し服薬介助を行なう、また、副作用についても、周知徹底している		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意分野を活かした役割やお手伝いをお願いしている。また、散歩・買い物・外食・趣味の習い事など支援し、気分転換を図っている		

福岡県 グループホーム 玄海の森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>希望ある際は、体調・天候・気候など考慮し外出行なっている。また、ご家族と共に外出できるよう車椅子の貸し出し、目的地の提案など支援している</p>	<p>近隣にある「かんぼの宿」まで散歩したり、ドライブに出掛けたりしている。職員の支援だけでなく、家族の主体的な関わりによる外出も支援しており、これまでに通っていたダンス教室に継続して参加している方もおり、介護計画にも示しながら支援を行っている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>管理については、ご本人・ご家族同意の下金庫でお預かりしている。外出時、使用時は職員介助のもと、お支払をお願いしている</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>自らの電話希望は少ないが、電話あった際は取り次ぎ援助などスムーズに行なっている。また、季節に応じてお手紙(暑中見舞い・お年賀)を送っている</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間で快適に過ぎて頂くため、日差しが強い際はよしずを立てかけたり、テレビ・音楽の大きさは音量に配慮している。居間には、毎月、壁面を付け替えたり、季節の花を飾るなど季節感を感じて頂けるよう工夫している</p>	<p>リビングには大きな窓があり、太陽の光が差し込み暖かく明るい。またテラスもあり、天気がいい時はそこにイスを並べてひなたぼっこも出来る。ソファや畳敷きのスペースも設けられており、それぞれが思い思いの場所で過ごせるような環境が整えられている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有スペースには、ソファ・和室があり、好きな場所で過ぎて頂いています。また、テラス近くに椅子を移動したり、職員の作業を見学して頂いたり、希望に副えるよう工夫しています</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ペット・カーテン・照明器具・タンスは備え付けとなっており、それ以外のものは、ご本人が以前使用していた、慣れ親しんだものを持参して頂いたり、また、ご家族より、好みの物を持って来て頂いている</p>	<p>自宅で使用していたタンスや鏡台等、使い慣れたものを持ち込まれており、それぞれの好みに応じた居室づくりがなされている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下・脱衣室・浴室・トイレには手すりが設置。全フロア(和室以外)バリアフリー。車椅子での生活の不備がないよう、廊下・トイレなども広い空間を整え、安全な環境作りに努めている</p>		